たいよう

発行所
太洋基礎工業㈱
たいよう新聞委員会

最前線レポート

工事件名
上益城管内治山激甚災害対策特別緊急事業第一号工事
発注者
上益城地域振興局
農林部林務課
元請会社
明和建設(株)
工事場所
熊本県上益城郡
御船町七滝地内
施工期間
令和二年一月十四日～
令和二年三月十一日
工事概要
転石破砕工　二二九・六㎥

本工事は、熊本地震によって落下した転石を放電破砕工法によって破砕撤去するものです。

現場は、熊本地震の際、震源地であった益城町の隣町にあり、震度六弱と激しく揺れた場所で写真のように岩盤が大きく崩れていました。工事目的は、現場の下の国道四四五号を防護する落石防護ネットが、法面に残る崩れた巨大な転石の落下で破壊されるのを避けるため、法面に残る転石を全て測量したのち、巨大な転石のみを放電破砕工法によって撤去することです。

放電破砕工法とは電気エネルギーを利用してコンクリートや岩盤を安全に効率よく破砕する工法です。手順は削孔工具を使用し、三本一組の放電カートリッジの装填孔(削孔長約四〇㎝、削孔間隔約四〇㎝)を削孔し、放電カートリッジを装填します。そして、タンピング材(砂)にて締め固め後、放電カートリッジと放電衝撃発生装置を放電ケーブルでつなぎます。準備完了後、放電衝撃発生装置に充電された電荷(三〇〇〇V)をカートリッジに放電し放電チップと自己反応性液が反応することで起こる気化衝撃により対象物を破砕します。

放電破砕工法のメリットとして、

一つ目は低振動、低騒音、低粉塵があるので周りの環境への対策がしやすいことです。

二つ目に火薬類を使用しない破砕工法であるということです。放電カートリッジ内容液は非火薬類であるから火薬取締法の制約を受けず、取り扱いが容易です。また放電カートリッジが反応するためには高電圧が必要であるため誤爆がありません。

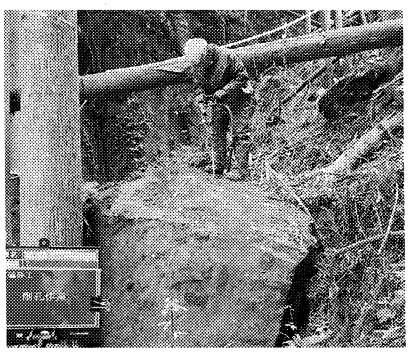
三つ目に遠隔操作で施工でき、狭隘な現場で施工可能ということです。放電ケーブルは一二〇mまで延長することができ、放電カートリッジは横向き、上向きにも装填可能なので施工の自由度が高いです。また放電衝撃発生装置はコンパクトである為、可搬性及び運搬性に優れているので狭いヤードで施工可能です。

その一方で、安全管理が大切になります。特に放電時の飛散石と感電です。まず、飛散石の対策として、今回の現場では施工場所の下には国道があり交通量があるところでしたので、飛散石が一般車両に衝突することがないように細心の注意を払う必要がありました。そのため、破砕後の砕石が道路まで転落しないように転落防止用の仮ネットを設置し、放電時には一時的に通行を止めるなどの処置を行いました。作業員に対しては立入禁止区域と避難区域を設けて放電の準備が完了次第作業員は避難区域に移動することを義務付けました。

また感電対策として、通常は放電完了後、電圧が急降下し、残電圧は〇Vになります。しかし、放電プローブの結線不足や断線などが起きている時や放電ケーブルとカートリッジ電線の接続ができていない時などは、電圧が抜けず、感電するリスクがあります。そのため、連絡を密にとり確実に残電圧が〇Vになることを確認したうえで次の作業に移ることを徹底しました。

以上の安全対策・作業手順を遵守し管理することで無事故・無災害で無事に完工することができました。

最後に今回の工事で御指導・御協力して下さいました、明和建設(株)様を始め、遅延無く無事故で工事していただきました協力業者並びに関係者の皆様方に紙面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



九州支店　工事部
前田　桂佑

声援

全国の支店、営業所、出張所の皆様方並びにいつも多大なる協力をして頂いております協力会社の皆様方、毎日お疲れ様です。全国的には梅雨入りし、高温多湿という過酷な環境下での業務で大変な思いをされている中、今年はさらに加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、三密の回避できない場所での日常生活・業務ではマスク等の着用が欠かせないものになっています。コロナ禍の今は、人類とウイルスが共生『ｗｉｔｈコロナ』していく生活となり、長期にわたって感染拡大を防ぐために飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策をこれまで以上に日常生活に定着させ持続させる『新しい生活様式』と対策を強いられております。そんな中、四月～五月と続いた緊急事態宣言の解除後、六月一日～七日にかけての一週間で全国では一〇〇〇人以上の方々が熱中症になられたとニュースで聞きました。今年の熱中症は、コロナとの平行対策となるため例年に増して各自・各現場にて十分な対策を講じていく必要があります。

皆様ご存じの通り『熱中症』とは、気温の高い環境にいることで体温を調節する機能が狂い、大量の発汗を引き起こして汗とともに体内の水分や塩分などが消失しバランスを崩すことにより起こる、めまい、頭痛、けいれん、体温の上昇、意識障害などが代表的な症状とされております。軽い症状で済む場合から重篤となれば命に関わる場合もあります。イメージ的には梅雨明け直後の日差しが強い暑くなる時期からピークを迎えると思われますが、近年では梅雨前からでも発症者が増えている状況です。

発症しやすい環境は気温や湿度、風の有無、日差しの強さなどの気象条件が大きく影響する場合が多く、屋外での業務だけでなく、高温多湿の環境下では屋内であっても厳重な注意が必要とされます。

コロナ対策としてマスクは飛沫の拡散予防に効果はありますが、着用することにより心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど身体に負担がかかることがあり、高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。そのことから環境省と厚生労働省より熱中症予防行動のポイントが公表され、三蜜を回避できる場合はマスクを外し、熱中症の発生を抑制する様、呼びかけられております。忘れてはいけない基本的な予防として、『暑さを避ける』、『こまめな水分や塩分補給』、『暑さに備えた体作り、健康管理』が大切となります。これから日ごとに暑くなり、熱中症リスクが高くなる一方、個人の判断も大切ですが、周囲の方からの声かけも非常に大事な早めの危機管理となります。三密を回避しながら朝、昼、夕方、お互いの顔色を見て会話をしてみてください。

緊急事態宣言中の建設業界に於いては工事の中断、延期する現場もあり、状況によっては土曜日を休工にするなど制限を設けて対応し、仕事ができる感謝の心を持ちながら業務をさせて頂きました。これから徐々に制限が緩和され人の流れが活発化しますが、引き続き自分、そして大切な人の命を守る事を念頭に置き、少しずつ経済の歯車を回していけるよう各自責任ある行動と共に社会貢献に努めていきましょう。

一日も早い終息に向かいますよう。『ご安全に！』

東京支店　開発部
部長　小圷　修作

共生共迎

・一〇〇億完工後の数年間完工が伸びず、アテネから聖火が届く期までに一五〇億完工に再目標を設定し達成期です。

・四月の取締役会に、成長なくして繁栄なしとする完工増最優先の経営から、成長なくても繁栄ありとする一〇〇年企業づくりに軸足をおいた経営体制の構築を促しました。さりとて、完工増なくして雇用を守るのは絵空事です。新目標二〇二〇年代中に二〇〇億企業の仲間入り。完工増優先でなく九年かけて、社員、得意先、協力会社、工法協会メンバー含めて、真の働いて良かった職場づくり、社会に存在価値のある職場づくりを第一義に進めようという提案です。時間は充分あります。地道に何が社員の為に必要か、何が得意先、協力会社様に喜んで頂けるか、全てに充実した経営、得意先から信頼され安心して発注して頂ける安全で良質な施工体制、一流の施工管理者、一流のオペの育成、特殊土木の経験を生かした元請受注増や営業工種の拡大、安定した財務体制等々が構築できれば、最終年二〇二九年の一年で一気に五〇億完工増も夢ではないと信じます。

社会のニーズに応えた工種を伸ばしていく、どう一流の建設マンと言われる人財城を構築していくか、良質な協力会社との関係強化をどう進めるか、じっくり考えた経営の先に二〇〇億完工があるとした提案です。

夏の風物詩甲子園大会会中止。球児達の目標が一気になくなり、可哀そうで辛くなりました。目標を持つという事は、働き甲斐を持つということです。確かな目標を共有した良質な経営の実践こそ働き甲斐の道と記します。

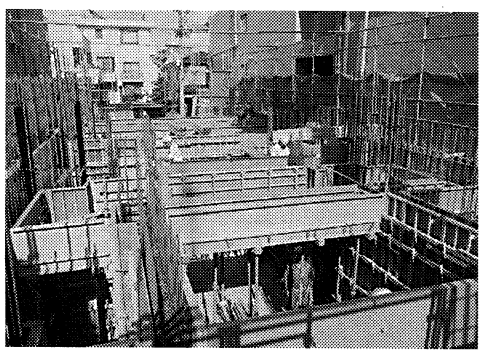
顧問　豊住　満

事業所だより

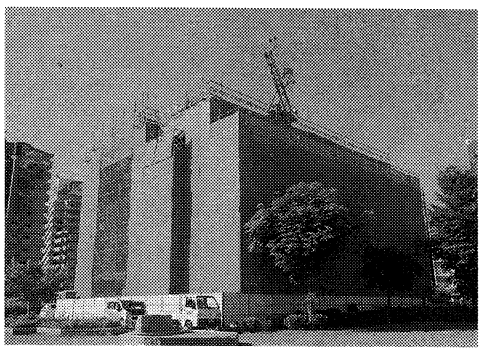
名古屋支店　建築部

五月二十五日、全国で新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除されました。今後も感染への注意は必要なものの、少しばかりか世の中にも、明るさが感じられるようになりました。今は、コロナがこのまま終息することを心より願うばかりです。コロナとの共存には不自由さもありますが、終息までもう一息だと信じて踏ん張っていきましょう。

さて、五四期も早いもので残り一カ月余りで上期を終えようとしております。今期建築部は、これまでの営業成果と様々な人間関係や職域での繋がりから、店舗ビルや工場、倉庫、高齢者施設、教会、養豚場にマンション等、新築工事から改修工事まで、多種多様にわたり御見積りのご依頼をいただくまでに成長致しました。そして、人材についても四月に二名、六月に二名と新たに四名の仲間も増え徐々にではありますが、部署としての形もできて参りました。また、少しばかりか先の見通しもたてられるようになりました。



名古屋支店に建築部が新設され今期で四年目、改めて発足当初を振り返ってみますと、三名でゼロからのスタート、建築分野においての経験やノウハウも浅く全く先の見えない中、根拠のない目標を掲げ、我武者羅になってＰＲ活動や営業活動をしてきました。たくさんの失敗や苦しい想いも経験してきましたが、多くの方々からのアドバイスやお力添えをいただきながら、何とかここまで業績は右肩上がりで成績を納めることができております。そして、今期のここまでの成績については、受注高は目標に対してほぼ五〇％の達成率で推移し、完工高につきましては、前期繰越分を合わせますと現段階で目標達成の目途がたった状況でございますので順調と言えるかと思っております。また、同時に発足当時に掲げました建築部中長期ビジョンでの「二〇二〇年完工一〇億」の目標も達成の目途もたちました。ターゲットイヤーであり、建築部としても節目となる今期、時期尚早ではございますが良い形で締め括れそうで安堵しております。今後は更に良き業績を残せるよう尽力したいと考えております。そして、今期売上高一五〇億達成に向けて、気持ち新たに必ずや目標達成したいと考えております。職員の皆様に於かれましても、自身で掲げられた目標は必ず達成するんだという強い気概と覚悟を持って諦めず邁進して参りましょう。それぞれがそれぞれの立場で最善を尽くせば結果は必ずついてくると確信しておりますので一丸となって成し遂げて参りましょう。



最後にここまで、三六件の建築工事を経験させていただきました。施工実績の少ない弊社を信用し、またチャンスをいただき、ご発注いただきましたお客様には心より厚く感謝・御礼を申し上げます。そして、安全作業で良質な工事にご尽力いただきました協力会社の皆様におかれましても、心より厚く感謝・御礼を申し上げます。今後とも、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。

名古屋支店　建築部
取締役建築部長　豊住　清

創業六二周年記念事業
常磐学区に浅井戸寄贈

当社創業六二周年記念事業として本社所在地にある名古屋市中川区の柳森公園に浅井戸を設置し、常盤学区へ寄贈いたしました。

災害時、地元の住民の方々に活用してもらう目的で豊住顧問の発案で浅井戸を設置する計画を立て、五月二六日に井戸の削孔と簡易手押しポンプの設置、五月二七日に設置場所が公園内という環境の為、安全に配慮しフェンスを設置いたしました。六月五日午前に、同公園内で浅井戸の贈呈式が催されました。

この日の名古屋の最高気温は八月上旬並みの三三度に達し、雲も少なく晴れ渡る空の下、式典が行われました。贈呈式には、地元の住民や新聞記者の方が十数名ほど参列し、本社からは豊住顧問も出席されました。豊住顧問は集まった方々に、手押しポンプの使い方を自らレクチャーし「お年寄りから子供まで簡単に誰でも使えますよ」とポンプを押しながら、にこやかに話されておりました。

勢いよくポンプから飛び出た水は数分で五十リットルの大型バケツをいっぱいにしました。地下から汲み出した水はやや砂を含んでおり、そのままの状態では飲料水としては使うことはできませんが、生活用水や防火用水の備えとして、十分な量の水を確保できます。地震などの災害により不自由な生活を余儀なくされた時、最も人命に関わるものが「水」だといいます。災害用に飲料水を備蓄している家庭も多くあると思いますが、飲料水はあくまで飲むための水であり、トイレや洗濯などの生活用水までストックするのは大変困難です。今回設置をしました手押しポンプは電気を必要としません。大震災などによりライフラインがストップし、電気が供給されなくなった時でも、人力で地下から水を汲み出すことができます。そのため、災害時の生活用水を確保するのに手押しポンプは非常に便利なのです。

贈呈式では、加藤社長から学区区政協力委員会委員長へ目録が手渡されました。式後、加藤社長は記者に対して「地域貢献となればうれしい、これからも地域に役立つ活動を継続したい」と話されました。今回の贈呈式の模様は、複数の新聞やツイッターでも取り上げられ、多くの人々に太洋基礎工業を知ってもらえるいい機会にもなりました。

平成という時代は、阪神・淡路大震災（一九九五年）、東日本大震災（二〇一一年）と、多くの地震災害に見舞われ、更には御岳山噴火（二〇一四年）や九州北部豪雨（二〇一七年）など、多くの自然災害に直面する厳しい時代にもなりました。そして、令和初頭は皮肉にも新型コロナウイルス感染症の騒動により、世界中に暗雲が立ち込める中でのスタートを切りました。人々の災害に対する恐怖心と、災害対策に対する関心がより一層強くなっているのを生活の中で感じます。

しかし、このような状況であるからこそ、「建設で拓く豊かな都市づくり」をモットーに、これからも精力的に地域貢献活動を継続し、災害にも強い太洋基礎工業として、社会に存在価値を示していくことが重要だと思います。

管理本部　総務部
足立　光夫

ひとり言

・コロナ禍の中で、五月から六月に卒業シーズンを迎える卒業生に米国では著名人がオンラインを使ってはなむけの言葉を贈り話題を集めていると新聞記事に紹介されていました。

・二〇二〇年組と呼ばれる卒業生を「選ばれた組」として評価した人気司会者オプラ・ウィンフリーさん。パンデミックが壊した日常を元に戻すのでなく、より良い日常に進化させていく使命があると激励。

・オバマ前大統領、これまでのやり方はこうだと説教する人はもういない。これからの世界は君たちが作ると。

・記事の最後に疫病を体験した私たちに社会を再構築していく二〇二〇年と評しています。

・若い頃、人生意義のない事など一つもないと学習しましたが、コロナは私たちに大きな教訓を示唆しています。外国に比べ死者の少ない状況から、医療従事者への敬意と感謝が種々報じられていますが、災害列島化した日本、災害が発生する度、最前線で国民の生命を守る建設人の頑張りは、コロナが落ち着いた先に医療従事者以上に評価されるのでないかと自負しています。全て人生前向きにプラス思考で生きていきましょう。

顧問　豊住　満

共済会だより

☆新しい仲間

六月一日
杉浦　剛志
名古屋支店　建築部

菱田　綾
名古屋支店　建築部

☆お疲れ様でした

五月二十日
中村　侑哉
静岡支店　工事部

お願い

皆様のお知り合いの方で住宅新築およびリフォームと新車購入、太陽光発電システム設置の予定のある方をご紹介ください。（本人でも可です）

紹介者には謝礼を進呈します。連絡先は、本社総務部までお願いいたします。